

グローバル 講演会

ミュージシャンの生き方に学ぶ

自分の思いにひたむきに



白馬高校では、キャリア教育の一環として「自分らしい生き方」を探るきっかけを生徒に与えるために、著名人をお招きして「グローバル講演会」を開催しています。九月十六日には、震災復興支援等のチャリティ活動に取り組みされているシンガーソングライターの中西圭三氏をお迎えし、講演をしていただきました。

高校から大学、そし

てプロのミュージシャンとしての軌跡、さらにチャリティ活動へのかかわり、中西さん自身のこれまでの生き方から、「本当に自分がやりたいことは何なのかを自らに問いかけ、自分の思いにひたむきにチャレンジすることの大切さ」を教えていただきました。さらに、作曲・編曲家としても有名な小西貴雄さんのキーボード演奏で何曲も熱唱していただき、会場には大きな拍手が響き渡りました。

前日、白馬でチャリティコンサートが開催されましたが、その準備のために、本校生は有志二十名ほどで「白馬高校ぼよん共和国プロジェクト実行委員会」を組織し、積極的に活動してきました。ポスター・チラシのデザインや宣伝方法の考案、共演企画の提案のほか、二人一組で企業を訪問して、コンサートの趣旨説明を行い、協力を呼びかけました。その結果、多くの企業に協賛していただき、すばらしいコンサートにすることができました。学校の中の活動にとどまらない、貴重な体験をさせていただきました。

しろつま學舎開講

地域の支援で進路実現サポート

九月十一日、しろつま塾の開講式が行われました。都市部と比べて塾や家庭教師が少ないこの地域で学ぶ生徒の学力向上を目的に、公営塾として設置され、白馬村と小谷村によって運営されます。

白馬高校の合宿所を教室として利用し、白馬村の地域おこし協力隊員に講師を務めていただきます。開講式では

下川正剛白馬村長と松本久志小谷村長によって看板が掲げられました。



PTA・生徒、三者で力を合わせて 学習環境整美作業を実施



PTA施設部会の呼びかけで毎年実施している学習環境整美作業が八月二十九日に行われました。朝早くからの作業でしたが、集まった参加者は、保護者および教職員・生徒、合わせて百名を超え、物理教室の机の塗装、

体育館前の砂利広げ、校庭の砂まきおよび周辺の草刈りなどに汗を流しました。朝から降り続く雨が時折強くなるようなあいにくの天候でしたが、予定していた整美作業を、2時間ほどで完了することができました。

三年 赤澤あゆな

留学先 ドイツ

私は昨年の八月から一年間、ドイツに派遣させていただきました。私が派遣されたところは、ネアンデルタール人が発見された場所として有名などころでした。とても自然豊かな場所です。白馬村にも通ずるところがあり、すぐに慣れることができました。また温かいホストファミリーや学校の友達に恵まれ、ド

イツの生活にもすぐに溶け込んでいくことができました。しかし、最初にぶつかったのはやはり言葉の壁でした。自分自身が思っていた以上に英語が使えず、思うように自分をうまく出せない時期もありました。それでも私は、ドイツ語をはやく身につけて沢山の人のコミュニケーションをとろうと思ひ懸命に勉強をしました。幸い大きな力になってくれ

る親友ができ、彼女たちを通して、部活動や地域活動の中から、仲を深めていくこともできました。

私はこの留学を通して、ドイツの文化や生活、ドイツ人の優しさなどを学びましたが、一方で日本人として、日本を知らないことに気づかされました。「福島の原子力発電所について何か知っている？日本の政治形態は？日本にとつての終戦日

留学で学んだこと

本校では、ロータリークラブの青少年交換プログラムによる長期（1年）の留学生派遣と、受け入れを行っております。夏休み前に、フランスからの留学生が帰国し、フランスおよびドイツに派遣されていた本校生2名が帰国しました。夏休み明けの2学期始業式には留学報告会が行われました。



の歴史を知れ、日本との違いを感じ、あらためて日本の良さ、そして悪いところも見えてくると思います。私がこの留学を行って本当によかったと思ったことは、沢山の国の友達をつくることができ、日本以外の言葉を学び、皆が母国語以外の言葉を話し笑えたことです。誰もができる経験ではありません。この留学の素晴らしさを私にくださった方々、私に関わってくださった全ての方に感謝の言葉をいいます。ありがとうございました。

三年 菊本華彩奈

留学先 フランス

フランスに到着した当時、私はホストファミリーを目的にしているだけでした。ただ笑っているだけ。そんな私は約一年間の留学を体験し、自分の言いたいことを伝え、いろいろな人とコミュニケーションがとれるまで成長することができました。日本を出て、大切

なことに気づかされました。

約一年間のフランスでの生活を終えて、私が思うことは待っているだけでは始まらない。自分から話しかけ、自分で話を作り、自分から輪にはいることが大切だということでした。誰かが話しかけてくれるのを待っているだけでは、お互いの心は開けません。国が違うと言うことは、とて

も難しいことです。顔の形、色も違います。もちろん話す言葉だって違います。体の体型とだらけです。だけど、そのことを気にしてはいけません。やはり、全く同じ国の人と同じようにはいきません。だから、国の壁を壊さなくてもいいのです。少し穴をあけて覗いてみてください。すると、きっと違う国

とは？、いろいろな授業で先生や友達、また他の留学生から質問されても、私はうまく答えることができませんでした。私はそれをとても情けなく思ひ、その後懸命に日本について調べ、学びました。留学や国際交流は、異文化に触れて日本の文化や歴史を伝えるだけではなくありません。日本のことをよく知り、日本を伝えていく自覚を持つことも大切だと私は思ひます。この先の白馬高校の国際観光科設立に関しても、英語だけでなく、日本を伝えていく内容の勉強も加えていってほしいと思います。